

今、考える。「人類と農業」

「農耕」の開始
農業革命は、
人類史上最大の詐欺であった。

『サピエンス全史』から

ユヴァル・ノア・ハラリ
『サピエンス全史』はこう指摘する。

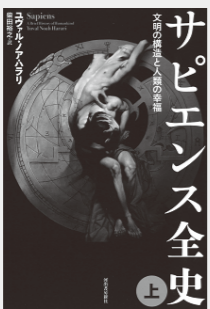
「狩猟採集民は、より刺激的で多様な時間を送り、バランスの取れた食生活を謳歌し、飢えや感染症のリスクも小さかった。ところが人類（ホモ・サピエンス）は農耕を始めたこと（農業革命）で、確かに食料の生産量は増加したものの、人口爆発とエリート層の形成（身分格差の生成）につながっただけで、平均的な農耕民は、それまでの平均的な狩猟採集民よりも苦勞して長時間働くようになったにもかかわらず、見返りに得られる食べ物は劣ってしまったのだ。

しかし、その責任は、王や聖職者、あるいは商人に帰せられるものではない。犯人は小麦、稲、ジャガイモなどの植物種である。つまり、人類がそれらを栽培化したのではなく、それら植物種によって人類が家畜化されたのである。」

J-T生命誌研究館名誉館長の
中村桂子さんもこう指摘する。

「人類はどこで間違えたのか」の著書で、「地球上に暮らす多様な生きものの一つであるヒトが、人間として他の生きものとは違う道を歩き始めたのは「農耕」を始めた時からです。ここから自然の中で暮らしながらも自然を支配するという気持ちが生まれ、それがどんどん強くなってきたのです。」

そうなんです。「農業」―「農耕」のあり方が人類の未来を決めるのです。自然との向き合い方です。AIは、自然との向き合い方ができません。自然と向き合える「農民」がどう未来を描けるかにかかっています。農耕は「一人ひとりが楽しく生きることを支える食べものづくり」です。そして、権力者が支配しやすいような社会をつくるのに適した作物をつくるのではなく、それぞれの地域でその土地の持つ土と在来植物の力を生かして食べものをつくるという本来の農耕に変えていく。



『サピエンス全史』
国家、貨幣、企業……虚構が他人との協力を可能にし、文明をもたらした！ではその文明は人類を幸福にしたのだろうか？現代世界を鋭くえぐる、50カ国以上で刊行の世界的ベストセラー！

『人類はどこで間違えたのか』
気候変動、パンデミック、格差、戦争……人類史20万年の岐路の今、我々の生き方が問われている。独自の生命誌研究のバイオニアが「本来の道」を探る。

新しい農業のあり方への転換。
それは「食料主権」と

「農民の権利宣言」を具現化すること。

食糧主権 VS 新自由主義モデル

食糧主権		新自由主義モデル
食料と農業を貿易協定から除外	貿易	全面的な自由貿易
国内向けの食糧を優先	生産	輸出向けを優先
生産コストをカバーし、農民に人間らしい生活を保証する価格を保障すべき	農産物価格	市場原理 低価格を強要するメカニズムまかせ
真の農地改革を通じて実現されるべき	土地に対するアクセス	市場原理にまかせる
農村社会と文化に信託された人類共有の財産。「生命特許反対」	種子	特許商品である
エコロジカルで持続可能な農法。遺伝子組換えノー	農法	工業的、モノカルチャー、化学物多投、遺伝子組み換え
文化と遺伝子資源の守り手。生産資源の管財人、知識の宝庫。	農民	時代錯誤、非効率、やがて消滅する存在

右の図表は、ピーター・ロゼット氏が食料主権と新自由主義農業を比較整理したものです。この図表の非常に優れている点は、農民という存在をどう捉えるかについての視座が示されている点です。すなわち、農民は「文化と遺伝資源の守り手」であり、「生産資源の管理者」であり、「知識の保持者」であるという視点です。それに対して、新自由主義的な経済モデルにおいては、農民は「時代錯誤的でいずれ消滅する存在」とされています。我々はこうした見方に抗わなければならない。農民は、そう簡単に消滅するような存在ではないということ。

食料主権という概念は、従来の経済モデルから新たな食料システムモデルへの転換を示すものです。我々農民こそが、その転換を担う「魁」となるべきだと思います。また、農民の権利宣言というものが、国連で正式に採択されました。これに反対したのはアメリカなどの大規模農業国です。この宣言は「小農民の権利」に主眼を置いており、今後はこの宣言を国際条約へと発展させていくことが求められます。たとえば、世界人権宣言が国際人権規約へ、核兵器廃絶宣言が核兵器禁止条約へと進展したように。もちろん、国際条約にはさまざまな課題がありますが、それでも条約として法的効力を持つことの意義は非常に大きいのです。

さらに、この宣言はアグロエコロジーの推進にも触れています。持続可能な農業の促進、生物多様性の保全、まさにアグロエコロジーの理念に合致するものです。このような視点が法的に確立されることによって、持続可能な農業の新たな境地在り開かれるのです。

農民連フラッシュ flash

節水型稲作視察

8月5日、会津産直センターで取り組んでいる節水型稲作試験の視察が行われました。稲作農家戸数の減少に伴い、大規模農家に農地の集約が進み、作業の省力化が求められています。苗作りをせずに圃場に直接種もみを播種する技術や菌根菌、ビール酵母を種もみに塗布することで、少量の水でも栽培できる技術を試験しています。



国は米の受給安定に責任を持って東北農政局要請

8月29日仙台市内において、東北農団連主催の東北農政局要請が行われました。令和の米騒動に対して農水省はこれまで「米はあるが流通段階で見詰まりしている」と説明してきました。しかし最新の調査結果によると需要が増え、供給量が足りなかったことが根本的な原因でした。参加した生産者からは「簡単に増産できるわけではなく、支援が必要だ」と要請しました。



オンラインから購入できます！



有機コシヒカリ
パックごはん



会津産小麦
100%そうめん

下記QRコードからご注文できます！



BASE



楽天

有機栽培コシヒカリを使用したパックご飯です。玄米と白米をご用意しております！

昨年ご好評いただいた福島県会津産小麦100%のそうめん。数量限定となりますのでお早めにお買い求めください！